

## 会議録

令和3年11月24日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和3年度第5回定例会
開催日時	令和3年10月27日(水) 18時30分から20時まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、ギログリー江美(副会長)、荒井茂、谷関幸子、小須田厚子、海老澤裕恵、石川健、青木美紀子、渡部國夫、小沼純子、高井正 職員：高田館長、國府方館長補佐(田無分館長)山本事業係長、等々力分館長(芝久保)、三城分館長(谷戸)、長谷部分館長(保谷駅前)、市川事業係主査、星野事業係主査
欠席者	三沢英俊 中嶋太、荒井容子
議題	1 審議事項 (1) 令和3年度第3回定例会会議録(案)について 2 主催事業について (1) 令和3年度公民館主催事業報告について(資料1) (2) 令和3年度公民館主催事業計画について(資料2) 3 報告事項 (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1) 公共施設マネジメント課のヒアリングについて (2) 令和2年度公民館事業評価について (3) 令和3年度東京都公民館連絡協議会第1回研修について (4) 第6回定例会の開催について 5 その他
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和3年度公民館主催事業報告書 資料2 令和3年度公民館主催事業計画書
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 1人
会議内容	<p><b>1 審議事項</b> (1) 令和3年度第3回定例会会議録(案)について ○司会(会長) 各自内容を確認し、修正点があれば一週間以内に公民館へ連絡する。</p> <p><b>2 主催事業について</b> (1) 令和3年度公民館主催事業報告(資料1) (2) 令和3年度公民館主催事業計画(資料2) ○A委員 「サロンコンサート レッツカーニバル」(芝久保)について。小・中学生が来たと思うがどのくらいいたのか。抽選だったのか先着順だったのか。抽選の場合小中学生優先か。 ○分館長(芝久保) 小学生3人、中学生1人が参加。受付は先着順。</p>

○B委員

インクルーシブな社会をめざす講座「みんなで楽しくアート！」（谷戸）について。「インクルーシブ」という言葉はいろいろと使われているらしいが、一般の人が見てすぐわかるのか。もう少しわかりやすく日本語でできないか。「ウーノの会」の障害のある方4人と参加した子どもたちの学年構成は。備考欄にある予定していたができなかった「参加者同士さまざまな交流のある講座」とはどのようなものだったのか。

○分館長（谷戸）

インクルーシブという言葉は確かにまだあまり浸透していないが「障害の有無、性別、国籍と言った属性にとらわれず、だれもが暮らしやすい社会を目指す」ことを目的としている。「障害の有無にとらわれない」ためには子どものうちから障害の有る方と接する機会を設けることが大事ではないかと今回の講座を企画した。5歳から小学校2年生までの子どもと母親6組が参加した。障害の有る方4人は「ウーノの会」の利用者で成人。実際にやりたかった講座とは全員で一つのピラミッドを作るというもの。障害の有無にかかわらず共同作業をすることで隔たりのない関係を作りたかったが、コロナ禍であったため、共同作業から個別にできる「ステンドグラスの制作」とし、互いの作品を鑑賞し合った。

○B委員

インクルーシブな社会を目指すには、子どものグループの中に障害の有る子どもが入って何を作るかを話し合い、役割を決めて作業するのがよい。子どもの障害に合わせて他の子どもが考えることが大事。全員でなくてもグループでやってみたらよいのではないかと思った。こういう取り組みはぜひ多く実施してほしい。

○C委員

「サロンコンサート レッツカーニバル」（芝久保）について。グランドピアノを使っただけの素晴らしい演奏会だが20人とは少ないのではないか。このような機会はぜひ設けて多くの方に知ってほしい。

○分館長（芝久保）

コロナ禍のため定員を抑えなくてはならず20人とした。コロナ禍が落ち着いたら定員を増やして実施したい。

○D委員

インクルーシブな社会をめざす講座（谷戸）の「インクルーシブ」という言葉は日常の中にはまだ浸透していないが、谷戸で継続して行うことで、あえて一般の方が「インクルーシブ」という言葉を耳にすることも大事ではないかと思った。チラシにはコメントが入っている。この言葉が当たり前のように浸透するよう公民館で取り組めると良い。

報告書の事業費目、基本方針について。例えば芝久保のサロンコンサートは事業費目「成人期」基本方針「開かれた公民館」とあるが、「世代を超えた交流が生まれた」「地域で活動する演奏家の協力を得ながら」「地域交流する事業を実施したい」ということから「地域とともに」「地域の中につながり」を方針としても良いのではないか。

○公民館長

「費目」は予算上の区分け。費目によって対象が決まる。基本方針1から4は公民館事業をするうえで総合的にかかわることではあるが、その中でも一番の目的は何かを示している。

○E委員

高齢者対象講座「私だけの人生ノートづくり」（保谷駅前）について。2回目は上野千鶴子氏が講師でありオンラインによる講義。可能であればこの回だけは公開講座とするなど人数を増やすことが出来ればよいと思った。

○分館長（保谷駅前）

「オンラインであれば」ということで著名な講師を依頼できた。可能な範囲で検討する。

○B委員

高齢者対象講座「私だけの人生ノートづくり」（保谷駅前）について。初めて取り組んだとは思えない重たい課題。この講座を企画する前に似たような講座をいくつか実施していたのか。ここにたどり着くまでの課程や担当者の意識を知りたい。

○分館長（保谷駅前）

この講座に至るまでの取り組みはない。昔とは違い人生において死を意識することはなくな

ったが、地域のつながりの薄い現代における死の迎え方を意識し自分の最後をテーマにして語り合ってみたいと考える。

○B委員

若い人が参加する可能性もある。どのような結果になるか報告を待つ。

○D委員

現代社会を考える講座『「戦後の始まり」から「いま」を考える』（柳沢）について。事業目的達成のための取り組み・課題3に「自分と近い人の個人史と重ね合わせながら学ぶ」とあり、戦後史を身近に感じられる講座であると思う。「受講者の年代は幅広い」とあるが通常このようなテーマの場合高齢者が想定されるが、若い世代の参加が予想されるのか。

○事業係主査

過去の「現代社会を考える講座」には20代から80代の方が参加している。昨年度は30代から80代が参加、準備会には40代から70代の方が参加している。

○D委員

今後幅広い年齢層が参加できる講座として継続してほしい。

○E委員

定員は緊急事態宣言解除後の定員か。

○公民館長

解除した時の定員だが、さらに緩和が進んできているので募集の状況、その時の緩和の状況に応じて弾力的に考えていきたい。

### 3 報告事項

#### (1) 行政報告

○公民館長

西東京市議会令和3年度第3回定例会について報告する。

公民館に対する質問は、決算特別委員会で2件。一つは公民館の多世代交流事業について。「多世代が交流できる事業の実施」は教育計画の中で公民館が主要施策のひとつとして取り組む事業とされている。令和2年度は、新型コロナの影響で多くの事業が中止になったにもかかわらず、公民館は、様々な事業を実施して参加者からも満足の声がたくさんあったことを評価したうえで、どのような工夫をしたのか、学校と連携した取り組みがあったかの質問があった。

質問に対し、できるだけ非接触となるよう事業内容などを再考し、人形劇フェスタは3部入れ替えの申し込み制にして、受け入れ時間も個々に指定したこと、子ども対象講座では、親子でひとつの作品を作って発表するなど工夫したことを答弁した。

学校との連携については、コロナ禍であることからチラシの配布などの依頼にとどまったが、今年度から実施する学校出前講座をとおして、地域、公民館、学校との連携につなげていくとの答弁をした。

もう一つはオンライン講座に関しどのように取り組んでいるかという質問。公民館ではオンライン講座の導入に向けた検証を行うことを目的に昨年度、2つの講座にオンラインを取り入れた。その結果を踏まえて、今年度はオンライン会議システム使用料を予算化し、オンラインを利用した各種連絡会や研修会を行っている。今後オンライン講座も、積極的に実施していく予定。しかしインターネット接続が可能な部屋は事務室のみで、事務室からLANケーブルをひいて実施するため、実施場所が限られている。公共施設の無線LANについては、所管課と調整して検討していきたいと考えていると答弁した。

○E委員

無線LAN導入は公民館を始め市全体で取り組んでほしい。

#### (2) 公民館だより編集室報告

○担当者（F委員）

10月6日（水）午後2時30分から柳沢公民館で編集室会議を開催。

11月1日号を4面で発行したが、次回の4面は2月1日号を予定している。一面特集では、「西東京市子ども条例」を取り上げる予定。

### (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

担当委員より、第6回、第7回委員部会運営委員会について報告

令和3年度第58回公民館研究大会委員部会課題別集会のテーマは「コロナ禍を乗り越えた公民館活動～ピンチをチャンスに～」、講師は新藤浩伸氏、西東京市・国立市・国分寺市が事例報告を行う。

## 4 事務連絡及び情報交換

### (1) 公共施設マネジメント課のヒアリングについて

○副会長

10月1日に、会長、副会長、学識委員1名と2委員が公共施設マネジメント課のヒアリングを受けた。

### (2) 令和2年度公民館事業評価について

○会長

10月13日、10月22日に二次評価検討会を行った。11月9日にも開催する予定。11月定例会で評価案を全員で検討し、12月定例会で確定したいと考える。

### (3) 令和3年度東京都公民館連絡協議会委員部会第1回研修について

緊急事態宣言延長により延期した第1回研修を12月15日（水）に実施する。

### (4) 第6回定例会の開催について

日時 令和3年11月24日（水）午前9時30分

場所 柳沢公民館視聴覚室